

エコアクション21

環境経営レポート

【対象期間 2022年10月1日～2023年9月30日】



発行日:2023年12月11日

コーワテック株式会社

目次

1.	組織の概要	2
2.	認証・登録の範囲	2
3.1	環境経営方針	3
3.2	実施体制.....	4
4.	環境経営目標.....	5
5.	環境経営計画.....	6
6.	取組み状況	7~11
7.1	環境目標の実績と評価.....	12
7.2	環境経営計画の取組結果.....	13
7.3	次年度の環境経営目標	14
7.4	次年度の環境経営計画.....	15
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価..	16
9.	代表者による全体評価と見直し.....	17

1. 組織の概要

「1」 事業所名及び代表者名

コーワテック株式会社
代表取締役 小栗 裕治

「2」 所在地

本 社 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-9-1 アコール新橋 3F
湘南事業所 〒253-0111 神奈川県高座郡寒川町一之宮 5-18-18

「3」 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者名： 松田 勝也
担当者名： 神田 直樹
連絡先： TEL 0467-72-5081 FAX 0467-74-4168

「4」 事業の概要

・特殊車両の設計・製作・修理、車両関連部品及びロボットの製作・販売、車両整備・車検

「5」 主な得意先(敬称略)

・いすゞ自動車株式会社・いすゞ車体株式会社・いすゞ首都圏株式会社・日野自動車株式会社・三菱ふそうトラック・バス株式会社・スバル興業株式会社・日本電気株式会社
全日空モーターサービス株式会社・株式会社IHIエヤロススペース・各テレビ局関係
その他自動車販売会社 等

「6」 事業の規模

事業の規模	2020年度	2021年度	2022年度
	2020/10/1~2021/9/30	2021/10/1~2022/9/30	2022/10/1~2023/9/30
従業員数(人)	69	77	73
総事業所床面積(m ²)	11,026	11,026	11,026
架装車両台数	204	257	267
メンテナンス台数	68	70	159
車検整備台数	10	7	11
部品販売(個)	862	679	828

2. 認証・登録の範囲

- ・全組織全活動に適用する
- ・組織：本社、湘南事業所
- ・活動：特殊車両の設計・製作・修理、車両関連部品及びロボットの製作・販売、車両整備・車検

3.1 環境経営方針

「1」環境理念

「当社は、ますます深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効利用が人類共通の重要課題と考えています。

特殊車両製品の製造等の事業活動における環境負荷の低減や、社会に貢献する製品の開発を目指し、全社一丸となって自主的・積極的に、環境への取組を進めてまいります。」

「2」環境方針

「環境管理体制の整備を進め、全従業員が環境に関する意識の向上と、管理力の強化に取り組み、社会に信頼される会社にする。」

私は、この環境方針を達成するために環境マネジメントシステムを構築し、当社従業員及び当社で働く全ての人に周知徹底し、維持管理し、環境経営の継続的改善に努める。

環境マネジメントシステムには、下記事項を含め実践する。

1. 年度毎の事業計画に環境目標を設定し、環境推進メンバーはこれを達成するための具体的な活動計画を立案し、展開、実施する。
そのシステムの運用状況、目標達成状況を把握、評価し、見直して、継続的な改善を図る。
 - ①電力・自動車燃料の消費を減らし、二酸化炭素排出量の削減
 - ②使用原材料の省資源、廃棄物の減量、再使用、再生利用(3R)の推進
 - ③水資源の節水
 - ④有害な化学物質の削減
 - ⑤原材料及び事務用品の環境に配慮した物品等の購入、使用等
 - ⑥作業ミスによる廃棄量の削減
 - ⑦環境に配慮した製品の開発と販売促進
 - ⑧工場周辺の清掃活動の推進
 - ⑧経営における課題とチャンスを考慮して環境経営目標を定め、それに取り組み定期的に見直しをすることにより環境経営の継続的な改善を行います。
2. 環境関連法規制を遵守し、社会の要求事項を満たし、社会の期待に答えるよう努める。

2020年 1月 22日
コーワテック株式会社
代表取締役 小栗 裕治

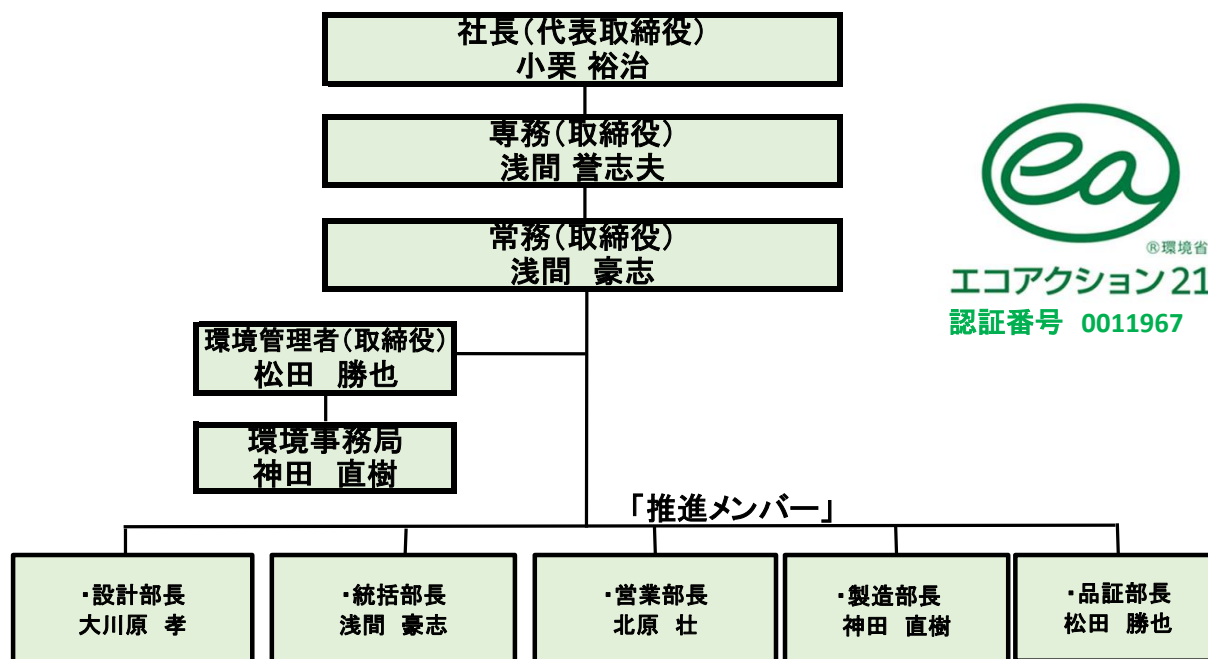
3.2 環境経営実施体制

環境組織体制と役割・責任

2023年4月1日

承認 作成

浅間 加藤



役割・責任

社長 (代表取締役)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション21運営に関する統括責任者及び環境管理者の任命 ・実施体制の構築 ・エコアクション21を運用し維持するため経営資源を用意する ・課題とチャンス进行明確にする ・経営方針を作成、全体の評価と見直しを行う
代表 環境管理責任者 (取締役)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション21システム構築・運用実施・管理責任者 ・代表者による全体の評価と見直しの実施 ・環境活動レポートの承認 ・環境方針にある行動指針の具現化 ・環境目標・環境活動計画の承認 ・環境目標・環境活動計画の是正処置の確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境目標の立案と環境活動計画の作成と運用 ・エコアクション21システムの要求規格への対応、外部審査の対応 ・環境上の緊急事態の想定と訓練の実施 ・環境関連法規等取りまとめの作成と遵守評価 ・環境活動レポートの作成、公開
EMS推進メンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・環境事務局の支援・活動協力 ・自部門に於ける環境目標・環境実施計画の実行責任
全社員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性の自覚と実践 ・決められたことを守り、自主的、積極的に活動への参加。

4. 2022年度環境経営目標

環境目標	単位	基準(実績)	前年実績	年度目標	中期目標	
		2019年度 2019年10月～ 2020年9月	2021年度 2021年10月～ 2022年9月	2022年度 2022年10月～ 2023年9月	2023年度 2023年10月～ 2024年9月	2024年度 2024年10月～ 2025年9月
1. CO ₂ 削減	kg-CO ₂	237,237	188,416	230,120	227,748	225,375
1-①電力使用量の削減	総量 kWh	345,542	297,310	335,176	331,720	328,265
	売上高原単位 %	100		97	96	95
1-②燃料使用量の削減	使用量 L	16,633	13,831	16,134	15,968	15,801
	売上高原単位 %	100		97	96	95
2-①産業廃棄物排出量削減(廃プラ)	排出量 t	26.64	14.96	25.84	25.57	25.31
	売上高原単位 %	100		97	96	95
2-②産業廃棄物排出量削減(廃油)	排出量 Kg	2,364	1,216	2,293	2,269	2,246
	売上高原単位 %	100		97	96	95
3. 上水使用料量の削減	使用量 m ³	835	298	810	802	793
	売上高原単位 %	100		97	96	95
4. 化学物質 使用量削減 (有機溶剤)	使用量 Kg	2,613	0	0	0	0
	売上高原単位 %	100		0	0	0
5. 環境配慮型製品の開発設計	件	3	3	3	3	3

1. 環境配慮型製品開発は、「RoHS指令」と「REACH規制」対応商品及び当社独自の環境配慮型商品とする。

* 1 電力のCO₂実排出係数は、20期から0.4kg-CO₂/KWhを使用している。(株式会社 新出光:H27年)

5. 2022年度環境経営計画

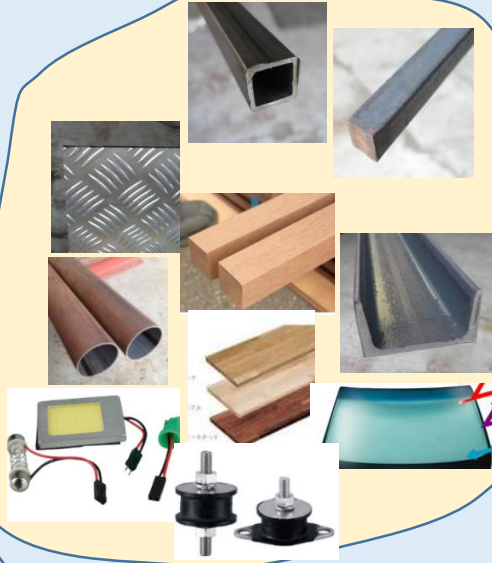
No	取組区分 目標値	活動計画	責任者	スケジュール	取組内容
1	温室効果ガスの削減 電力消費量の削減 目標値:335176kwh	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所、工場の照明昼休、残業等必要外消灯 ・ロッカー、倉庫、トイレは必要時のみ照明点灯 ・暖房24℃、冷房24℃設定 ・PC,OA機器は省エネモードに設定する ・事務所の冷暖房は扇風機を併用する ・機器、設備導入は高効率のものを優先する 	加藤	毎月(確認) 毎月(確認) 夏期、冬期(確認) 毎月(確認) 夏期(確認) 導入時	<ul style="list-style-type: none"> ・担当を特定せず、気が付いた人から実施する ・担当を特定せず、気が付いた人から実施する ・設定温度ステッカー ・省エネステッカー ・扇風機利用促進ステッカー ・環境に配慮して検討する
	化石燃料(車両) (ガソリン、軽油) 目標値:16134L	<ul style="list-style-type: none"> ・社用車エコドライブを心掛けて運転する ・社用車アイドリングストップを心掛ける ・長距離はガソリン車よりディーゼル車を使用する ・社用車のハイブリッド化を優先する 	加藤	隔月(確認) 隔月(確認) 隔月(確認) 買い替え時	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブステッカー ・アイドリングストップの設定車は必ずセットする ・社用車は軽、ディーゼル車を優先 ・環境に配慮して検討する
2	産業廃棄物削減 産業廃棄物(廃プラ) 目標値:25.84t	<ul style="list-style-type: none"> ・部品、機器、架装物は最小限の包装を指定 ・再利用できるものは再使用する ・品質向上活動で不良品の減少化を図る ・分別を厳格に実施し、リサイクル化を進める ・倉庫内の備品整理 	加藤	毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認) 棚卸時	<ul style="list-style-type: none"> ・省資源ステッカー ・省資源ステッカー ・社内教育(銚金学校)の実施 ・分別表示とパトロール ・不要品を確実に処分する
	産廃(廃油) (廃塗料、廃シンナー) 目標値:2293Kg	<ul style="list-style-type: none"> ・必要以上の塗料の調合をしない ・廃塗料、シンナーは乾燥をさせて廃棄処理する ・塗料、シンナーは出来るだけ容器を開放しない ・塗装品質を向上させる活動で無駄を少なくする 	白石	毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物にて喚起、塗装担当への周知徹底 ・掲示物にて喚起、塗装担当への周知徹底 ・掲示物にて喚起、塗装担当への周知徹底 ・OJTでの技術向上
3	排水量の削減 水の使用量削減 目標値:810㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、洗浄の水は出しっぱなしにしない ・手洗い、洗浄は容器を使用して節水する ・適度な洗剤、洗浄剤使用で節水をする ・地下水を優先して使い、上水使用を削減する 	加藤	隔月(確認) 隔月(確認) 隔月(確認) 隔月(確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・コック開度半減運動の展開 ・節水ステッカー ・節水ステッカー ・シャワーテスト、洗車は地下水を使用する
4	化学物質使用量 第1種指定化学物質 スチレン(塗料、シンナー) 目標値:0Kg	<ul style="list-style-type: none"> ・低有毒化学物質塗料の購入継続 ・低有毒化学物質シンナーの購入継続 ・塗装品質を向上させる活動で無駄を少なくする 	白石	毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・低有毒化学物質塗料を継続的に購入する ・低有毒化学物質シンナーを継続的に購入する ・OJTでの技術向上、新塗装工場の建設計画
5	廃材の削減 (リサイクルへ) 循環資源の削減 (鉄、SUS、アルミ、電線、木材、段ボール、ガラス、他) 目標値:54t	<ul style="list-style-type: none"> ・分別を厳格に実施し、リサイクル化を進める ・リターナブルパレットの返却を進める ・半製品、製品購入で原材料の減少を図る ・品質向上活動で不良品の減少化を図る 	神田	毎月(確認) 四半期 工番毎 工番毎	<ul style="list-style-type: none"> ・分別表示とパトロール ・外製化の拡大 ・社内教育(銚金学校)の実施、OJTでの技術向上
6	グリーン購入の推進 事務用品グリーン商品の 占有率アップ 目標値:72%	<ul style="list-style-type: none"> ・使用している事務用品がエコマーク付きのものか確認する ・エコマークのない事務用品を購入しない ・再生紙名刺の継続購入 	笹沢	購入時(確認) 購入時 購入時	<ul style="list-style-type: none"> ・エコマークの確認、エコステッカー ・エコマーク製品に購入切替、エコステッカー ・再生紙名刺を継続的に購入する
7	環境に配慮した製品 サービスの提案 架装物の設計に環境を配慮した製品化の推進 目標値:70%	<ul style="list-style-type: none"> ・架装物の分解可能化を設計時に考慮する ・架装設計時、リサイクル化可能を考慮する ・架装機材購入時、高効率品、エコマーク品化する ・架装物の設計は必ず環境を考慮する 	松田	工番毎 工番毎 工番毎 工番毎	<ul style="list-style-type: none"> ・架装物の解体マニュアル作成を進める ・架装物の解体マニュアル作成を進める ・RoHS部品の優先購入 ・RoHS部品の優先購入、解体マニュアル作成を進める

6.取組み状況

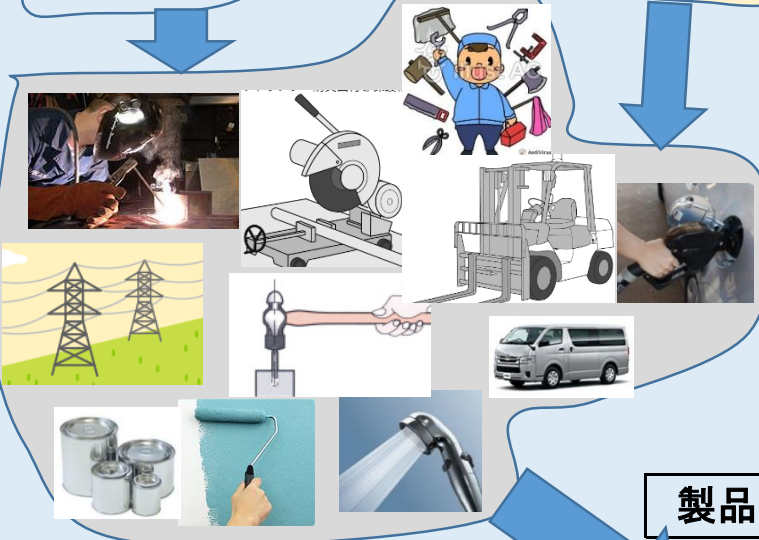
ベース車両



材料



架装



製品



廃棄



リサイクル

「1. ごみの分別と収集」



(鋼材・・・鉄、アルミ、ステンレス)



(電線)



(木材)



(アルミニウム)



(鉄屑)



「ステンレス」



(一般産業廃棄物)



(ゴミ集積場所)



(ガラス類)



(ゴム・プラスチック)



(段ボール)



(バッテリー)

「2. 会社周辺の清掃活動」



- * 工場周辺道路の清掃を実施(4月、8月)
- * さむかわまちぐるみ美化運動(第48回)に参加

「3. 水漏れテスト水を地下水で実施」



- * 多量に水を使用する、水漏れテスト用水を地下水で実施している。

「4. 節電ラベルで節電の推進活動」



* 各電源スイッチにラベルを貼り節電の推進活動を実施。

「5. 省エネラベルで省エネの推進活動」



* エネルギーを使用する器具にラベルを貼り、省エネ推進活動を実施

「6. 節水ラベルで節水の推進活動」



* 水を使用する器具にラベルを貼り、省エネ推進活動を実施

「7. 省資源ラベルで省資源の推進活動」



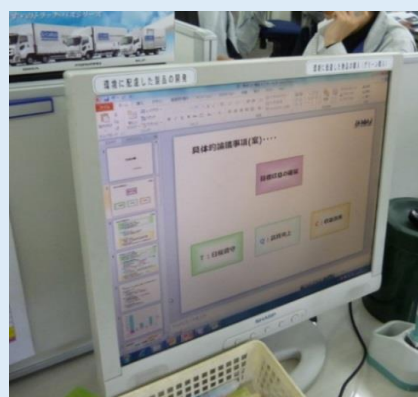
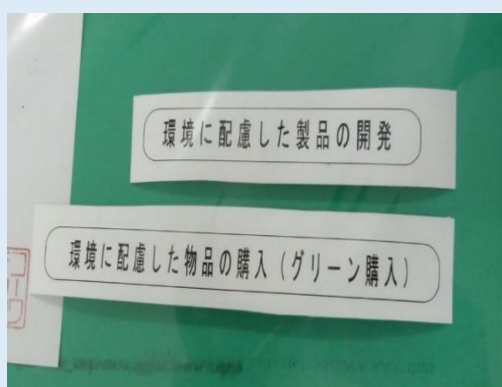
* 資源を使用する場所にラベルを貼り、省エネ推進活動を実施

「8. エコドライブラベルで省エネの推進活動」



* 社用車にエコドライブ、ラベルを貼り、省エネ推進活動を実施

「9. 環境にやさしい製品の開発、 環境にやさしい物品購入推進の推進活動」



* 設計、資材、発注部署担当者の常に見える位置にラベルを貼り、環境にやさしい物品の購入と、製品の開発の推進活動実施

7.1 2022年度環境経営目標の実績と評価

環境目標	単位	基準(実績)	目標	実績	達成状況	評価・是正処置
		2019年度 2019年10月～ 2020年9月	2022年度 2022年10月～ 2023年9月	2022年度 2022年10月～ 2023年9月	○達成 ×未達成	
0. 売上高	%	100	—	92	—	
1. CO ₂ 削減	kg-CO ₂	237,237	230,120	201,104	○	
1-①電力使用量の削減	総量 kWh	345,542	335,176	300,196	○	
	売上高原単位 %	100	97	94%	○	
1-②燃料使用量の削減	使用量 L	16,633	16,134	17,299	×	営業活動/出張対応/外注 製作の増加により未達
	売上高原単位 %	100	97	113%	×	
2-①産業廃棄物排出量削減(廃プラ)	排出量 t	26.64	25.84	15.73	○	
	売上高原単位 %	100	97	64%	○	
2-②産業廃棄物排出量削減(廃油)	排出量 Kg	2,364	2,293	2,096	○	
	売上高原単位 %	100	97	96%	○	
3. 上水使用料量の削減	使用量 m ³	835	810	418	○	
	売上高原単位 %	100	97	54%	○	
4. 化学物質使用量削減(有機溶剤)	使用量 Kg	2,613	0	0	○	
	売上高原単位 %	100	0	0%	○	
5. 環境配慮型製品の開発設計	件	3	3	1	×	電源車一部アルミ化

1. 環境配慮型製品開発は、「RoHS指令」と「REACH規制」対応商品及び当社独自の環境配慮型商品とする。

*1 電力のCO₂実排出係数は、20期から0.4kg-CO₂を使用している。(株式会社 新出光:H27年)

7.2 2022年度環境経営計画の実施状況及び評価

No	取組区分 目標値	活動計画	実施状況	評価	全体評価 次回取組み
1	温室効果ガスの削減 電力消費量の削減 目標値: 335176kwh	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所、工場の照明昼休、残業等必要外消灯 ・ロッカー、倉庫、トイレは必要時のみ照明点灯 ・暖房24℃、冷房24℃設定 ・PC,OA機器は省エネモードに設定する ・事務所の冷暖房は扇風機を併用する ・機器、設備導入は高効率のものを優先する 	◎ ◎ ○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○	継続 継続 継続 継続 継続 継続
	化石燃料(車両) (ガソリン、軽油) 目標値: 16134L	<ul style="list-style-type: none"> ・社用車エコドライブを心掛けて運転する ・社用車アイドリングストップを心掛ける ・長距離はガソリン車よりディーゼル車を使用する ・社用車のハイブリッド化を優先する 	○ ○ ○ —	○ ○ ○ —	継続 継続 継続 継続
2	産業廃棄物削減 産業廃棄物(廃プラ) 目標値: 25.84t	<ul style="list-style-type: none"> ・部品、機器、架装物は最小限の包装を指定 ・再利用できるものは再使用する ・品質向上活動で不良品の減少化を図る ・分別を厳格に実施し、リサイクル化を進める ・倉庫内の備品整理 	○ ◎ ○ ◎ ◎	○ ○ ○ ◎ ◎	継続 継続 継続 継続 継続
	産廃(廃油) (廃塗料、廃シンナー) 目標値: 2293Kg	<ul style="list-style-type: none"> ・必要以上の塗料の調合をしない ・廃塗料、シンナーは乾燥をさせて廃棄処理する ・塗料、シンナーは出来るだけ容器を開放しない ・塗装品質を向上させる活動で無駄を少なくする 	◎ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○	継続 継続 継続 継続
3	排水量の削減 水の使用量削減 目標値: 810m ³	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、洗浄の水は出しっぱなしにしない ・手洗い、洗浄は容器を使用して節水する ・適度な洗剤、洗浄剤使用で節水をする ・地下水を優先して使い、上水使用を削減する 	◎ ○ ○ ◎	○ ○ ○ ◎	継続 継続 継続 継続
	化学物質使用量 第1種指定化学物質 スチレン(塗料、シンナー) 目標値: 0Kg	<ul style="list-style-type: none"> ・低有毒化学物質塗料の購入継続 ・低有毒化学物質シンナーの購入継続 ・塗装品質を向上させる活動で無駄を少なくする 	◎ ◎ ○	◎ ◎ ○	継続 継続 継続
5	廃材の削減 (リサイクルへ) 循環資源の削減 (鉄、SUS、アルミ電線、木材、段ボール、ガラス、他) 目標値: 54t	<ul style="list-style-type: none"> ・分別を厳格に実施し、リサイクル化を進める ・リターナブルパレットの返却を進める ・半製品、製品購入で原材料の減少を図る ・品質向上活動で不良品の減少化を図る 	◎ ◎ ○ ○	◎ ◎ ○ ○	継続 継続 継続 継続
	実績: 56t 新塗装工場建設に伴う整理により増加				
6	グリーン購入の推進 事務用品グリーン商品の 占有率アップ 目標値: 72%	<ul style="list-style-type: none"> ・使用している事務用品がエコマーク付きのものが確認する ・エコマークのない事務用品を購入しない ・再生紙名刺の継続購入 	○ ○ ◎	○ ○ ○	継続 継続 継続
	環境に配慮した製品 架装物の設計に環境を配慮した 製品化の推進 目標値: 70%	<ul style="list-style-type: none"> ・架装物の分解可能化を設計時に考慮する ・架装設計時、リサイクル化可能を考慮する ・架装機材購入時、高効率品、エコマーク品化する ・架装物の設計は必ず環境を考慮する 	○ ○ ◎ ○	○ ○ ◎ ○	継続 継続 継続 継続

実施状況 ◎ 大変よくできた
 ○ よくできた
 △ 少しはできた
 × 全然できなかった
評価 ◎ 非常に大きな効果あり
 ○ 効果あり
 △ 少し効果あり
 × 効果なし

7-3. 2023年度環境経営目

環境目標	単位	基準(実績)	前年実績	年度目標	中期目標	
		2019年度 2019年10月～ 2020年9月	2022年度 2022年10月～ 2023年9月	2023年度 2023年10月～ 2024年9月	2024年度 2024年10月～ 2025年9月	2025年度 2025年10月～ 2026年9月
1. CO ₂ 削減	kg-CO ₂	237,237	201,104	227,748	225,375	223,003
1-①電力使用量の削減	総量 kWh	345,542	300,196	331,720	328,265	324,809
	売上高原単位 %	100		96	95	94
1-②燃料使用量の削減	使用量 L	16,633	17,299	15,968	15,801	15,635
	売上高原単位 %	100		96	95	94
2-①産業廃棄物排出量削減(廃プラ)	排出量 t	26.64	15.73	25.57	25.31	25.04
	売上高原単位 %	100		96	95	94
2-②産業廃棄物排出量削減(廃油)	排出量 Kg	2,364	2,096	2,269	2,246	2,222
	売上高原単位 %	100		96	95	94
3. 上水使用料量の削減	使用量 m ³	835	418	802	793	785
	売上高原単位 %	100		96	95	94
4. 化学物質 使用量削減 (有機溶剤)	使用量 Kg	2,613	0	0	0	0
	売上高原単位 %	100				
5. 環境配慮型製品の開発設計	件	3	3	2	2	2

1.基準年を売り上げが増加した2019年度としている。(2020年度～)

2.売上高は基準年とした2019年の売上高を100%とした。

3.環境配慮型製品開発は、「RoHS指令」と「REACH規制」対応商品及び当社独自の環境配慮型商品とする。

4.電力のCO₂実排出係数は、20期から0.4kg-CO₂を使用している。(株式会社 新出光:H27年)

7.4 2023年度環境経営計画

●印: 新しい計画

No	取組区分 目標値	活動計画	責任者	スケジュール	取組内容
1	温室効果ガスの削減 電力消費量の削減 目標値: 331720kwh	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所、工場の照明昼休、残業等必要外消灯 ・ロッカー、倉庫、トイレは必要時のみ照明点灯 ・暖房24℃、冷房24℃設定 ・PC、OA機器は省エネモードに設定する ・事務所の冷暖房は扇風機を併用する ・機器、設備導入は高効率のものを優先する 	加藤	毎月(確認) 毎月(確認) 夏期、冬期(確認) 毎月(確認) 夏期(確認) 導入時	<ul style="list-style-type: none"> ・担当を特定せず、気が付いた人から実施する ・担当を特定せず、気が付いた人から実施する ・設定温度ステッカー ・省エネステッカー ・扇風機利用促進ステッカー ・環境に配慮して検討する
	化石燃料(車両) (ガソリン、軽油) 目標値: 15968L	<ul style="list-style-type: none"> ・社用車エコドライブを心掛けて運転する ・社用車アイドリングストップを心掛ける ・長距離はガソリン車よりディーゼル車を使用する ・社用車のハイブリッド化を優先する 	加藤	隔月(確認) 隔月(確認) 隔月(確認) 買い替え時	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブステッカー ・アイドリングストップの設定車は必ずセットする ・社用車は軽、ディーゼル車を優先 ・環境に配慮して検討する
2	産業廃棄物削減 産業廃棄物(廃ブラ) 目標値: 25.57t	<ul style="list-style-type: none"> ・部品、機器、架装物は最小限の包装を指定 ・再利用できるものは再使用する ・品質向上活動で不良品の減少化を図る ・分別を厳格に実施し、リサイクル化を進める ・倉庫内の備品整理 	加藤	毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認) 棚卸時	<ul style="list-style-type: none"> ・省資源ステッカー ・省資源ステッカー ・社内教育(銚金学校)の実施 ・分別表示とパトロール ・不要品を確実に処分する
	産廃(廃油) (廃塗料、廃シンナー) 目標値: 2269Kg	<ul style="list-style-type: none"> ・必要以上の塗料の調合をしない ・廃塗料、シンナーは乾燥をさせて廃棄処理する ・塗料、シンナーは出来るだけ容器を開放しない ・塗装品質を向上させる活動で無駄を少なくする 	白石	毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物にて喚起、塗装担当への周知徹底 ・掲示物にて喚起、塗装担当への周知徹底 ・掲示物にて喚起、塗装担当への周知徹底 ・OJTでの技術向上
3	排水量の削減 水の使用量削減 目標値: 802㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、洗浄の水は出しっぱなしにしない ・手洗い、洗浄は容器を使用して節水する ・適度な洗剤、洗浄剤使用で節水をする ・地下水を優先して使い、上水使用を削減する 	加藤	隔月(確認) 隔月(確認) 隔月(確認) 隔月(確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・コック開度半減運動の展開 ・節水ステッカー ・節水ステッカー ・シャワーテストは地下水を使用する
4	化学物質使用量 第1種指定化学物質 スチレン(塗料、シンナー) 目標値: 0Kg	<ul style="list-style-type: none"> ・低有毒化学物質塗料の継続購入 ・低有毒化学物質シンナーの継続購入 ・塗装品質を向上させる活動で無駄を少なくする 	白石	毎月(確認) 毎月(確認) 毎月(確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・低有毒化学物質塗料を継続的に購入する ・低有毒化学物質シンナーを継続的に購入する ・OJTでの技術向上、新塗装工場の建設計画
5	廃材の削減 (リサイクルへ) 循環資源の削減 (鉄、SUS、アルミ電線、木材、段ボール、ガラス、他) 目標値: 52t	<ul style="list-style-type: none"> ・分別を厳格に実施し、リサイクル化を進める ・リターナブルパレットの返却を進める ・半製品、製品購入で原材料の減少を図る ・品質向上活動で不良品の減少化を図る 	神田	毎月(確認) 四半期 工番毎 工番毎	<ul style="list-style-type: none"> ・分別表示とパトロール ・外製化の拡大 ・社内教育(銚金学校)の実施、OJTでの技術向上
6	グリーン購入の推進 事務用品がグリーン商品の占有率 アップ 目標値: 72%	<ul style="list-style-type: none"> ・使用している事務用品がエコマーク付きのものが確認する ・エコマークのない事務用品を購入しない ・再生紙名刺の継続購入 	笹沢	購入時(確認) 購入時 購入時	<ul style="list-style-type: none"> ・エコマークの確認、エコステッカー ・エコマーク製品に購入切替、エコステッカー ・再生紙名刺を継続的に購入する
7	環境に配慮した製品 サービスの提案 架装物の設計に環境を配慮した製品化の推進 目標値: 70%	<ul style="list-style-type: none"> ・架装物の分解可能化を設計時に考慮する ・架装設計時、リサイクル化可能を考慮する ・架装機材購入時、高効率品、エコマーク品化する ・架装物の設計は必ず環境を考慮する 	松田	工番毎 工番毎 工番毎 工番毎	<ul style="list-style-type: none"> ・架装物の解体マニュアル作成を進める ・架装物の解体マニュアル作成を進める ・RoHS部品の優先購入 ・RoHS部品の優先購入、解体マニュアル作成を進める

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価

適合法律の調査日	法律の遵守調査日
2023年9月30日	2023年9月30日

1.適用となる主な関連法規

法律等の名称	該当する活動	遵守状況
・廃棄物処理法	廃棄物処理の適正処置	○
・水質汚濁防止法	排水の適正処置	○
・大気汚染防止法	大気に放出する煤塵、有害物質放出基準の遵守 (塗装)	○
・振動・騒音規制法	圧縮機、送風機の適正設置	○
・浄化槽法	浄化槽の維持	○
・消防法	危険物の適正保管、防火設備の整備維持	○
・労働安全衛生法	労働衛生環境の維持	○

2.違反、提訴等の有無

環境関連法規及び条例違反・訴訟は、2023年9月現在過去7ヵ年ありません。
尚、活動期間に於いて外部からの苦情の受付もありません。

9. 代表者による全体の評価と見直しの結果

見直し対象期間	2022年10月1日～2023年9月30日	
見直し実施月日	2023/10/7 <input checked="" type="checkbox"/> 定期 <input type="checkbox"/> 臨時	
出席者	(小栗社長)・浅間専務・浅間常務・松田取締役・小林監査役 北原部長・森課長・山崎係長・小松課代・大川原部長・綿貫部代 神田部長・中畑課長・久保寺課長・岸山課長・金子課代	
提出資料	① 環境目標の達成状況	○
	② 環境活動計画の実施及び運用結果	○
	③ 環境関連法規などの遵守状況	○
	④ 外部からの環境に関する苦情や要望 (地域住民・顧客・自治体・消費者や社会の要請等を含む)	○
	⑤ その他(法規制の動向の情報など)	○
見直し結果	① 環境方針の変更の必要性 (<input type="checkbox"/> 有り ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無し) 改善担当者: _____ 期限: _____	
	② 環境目標の変更の必要性 (<input type="checkbox"/> 有り ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無し) 改善担当者: _____ 期限: _____	
	③ 環境活動計画の変更の必要性 (<input type="checkbox"/> 有り ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無し) 改善担当者: _____ 期限: _____	
	④ 実施体制の変更の必要性 (<input type="checkbox"/> 有り ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無し) 改善担当者: _____ 期限: _____	
前回の指示への取り組み結果		
19期を基準年とし売上高比で評価しました。(売上高:基準年の8%減) ・CO2排出量、電気使用量、廃プラ・廃油排出量、水・化学物質の使用量は、絶対値目標・原単価目標ともに達成。 ・燃料使用量は、絶対値目標・原単位目標ともに未達。 ・環境に配慮した開発設計は継続されている。		
総括(今期の評価結果及び指示内容等)		
会社全体での環境に配慮した取り組みにより、概ね目標を達成できた。 産廃排出量についても昨年実施した廃棄物収集の取り組み見直しの効果が出ており、リサイクル率もUPしている。 燃料使用量の増加については、コロナの5類移行に伴い営業活動がコロナ前に戻ったこと、出張を伴う受注(移動距離)が増加したこと、外注依頼増加に伴い出張指導・検査が増加したことが要因と考えられる。 引続き今後も社員への指導教育を継続していく。		